

鉄道における電氣的防護に関する国際規格調査専門委員会

設置趣意書

2007 年 10 月 4 日

(交通・電気鉄道技術委員会)

1. 目的

各国における鉄道は、それぞれの国の歴史により個別に発展してきたが、最近の国際交流に伴って国際規格等による技術交流や標準化が行われるようになってきた。

電気鉄道において、旅客・公衆や従事者に対する電氣的防護については、IEC 62128 という国際規格がある。しかし、この規格は欧州規格 EN 50122 が原案となっているため、欧州における方式のみが示されている。

そこで、この国際規格の内容を中心に、国内外の実状を調査比較して特徴をまとめることにより、今後、防護方策の検討を行う上での基礎とする。また、これらの検討により、今後予想される国際規格の改定において日本のシステムを反映する方策にも寄与できると考えられる。

2. 背景および内外機関における調査活動

欧州においては、鉄道に各種の電気方式が用いられているが、EU 統合の象徴として国際列車の直通運転の拡大を目指している。このため、それに向けた標準化作業が強力に進められており、その一環として、人に対する電氣的防護に関する規格の制改定が現在行われている。

国内の鉄道においても電氣的防護が図られているが、国際規格との整合という視点ではそれほど検討されてはいない状況にある。今後の国際的な技術交流や鉄道システムの輸出を考えると、電氣的防護に関しても内外の比較を十分に行っておくことが望まれる。

しかし、鉄道システムの電氣的防護のあり方については、電力関係者のみでなく、車両や信号など広い技術範囲の関係者による検討が必要である。

3. 調査検討項目

- (1) 鉄道における電氣的防護について、今後の検討に資する目的で、国際規格 IEC 62128 を中心に内外の状況を調査・比較する。
- (2) 国際規格の次期改定に向けて、日本の防護方式を国際規格に反映させる目的で、日本から提言すべき内容をまとめる。

4. 予想される効果

鉄道における電氣的防護に関する内外の状況が整理されることにより、鉄道の電氣的安全性がますます高まると期待される。また、今後の国際的な技術交流や鉄道システムの輸出において利用可能な情報が提供できる。さらに、国際規格の次期改定における日本の主張の一助となる。

5. 調査期間

平成 19 年 (2007 年) 11 月 ~ 平成 21 年 (2009 年) 10 月

6. 委員の構成案

委員長:	中道 好信 (鉄道総研)	正員
委員:	池田 広人 (明電舎)	正員
	井相田 益弘 (国土交通省)	非会員
	稲村 正博 (日本電設)	正員
	川原 敬治 (JR西日本)	正員
	斎藤 勉 (三菱電機)	正員
	柴川 久光 (電気技術開発)	正員
	島田 健夫三 (三和テッキ)	正員
	杉本 晃一 (京王電鉄)	非会員
	土澤 壇 (JR東日本)	正員
	長沢 広樹 (鉄道総研)	正員
	萩原 善泰 (JR東海)	正員
	福田 光芳 (鉄道総研)	正員
	持永 芳文 (JRSEC)	正員
	吉永 純 (交通研)	正員
	吉原 茂 (鉄道・運輸機構)	正員
幹事:	出口 寛 (鉄道・運輸機構)	正員
	重枝 秀紀 (鉄道総研)	正員

7. 活動予定

委員会を年6回程度、幹事会を年4回程度開催する予定

8. 成果報告の形態

技術報告書による。

以上